

「保育」という おしごと

— 保育者からのメッセージ —



子どもたちの存在は
いつも私を
導いてくれます。

ん。これまでの悩みが一瞬で吹き飛び「この仕事を続けてきて良かった。これからも一生懸命子どもたちのために頑張ろう」と心に決めた瞬間にもなりました。縁があり年長児の担任を5回経験し、この感動を何度も味わえたことは大切な宝物となりました。保育の仕事は正解がなく不安に思うこともあります。それ以上にたくさんの方の感動に出会えるすてきな仕事です。

石神幼稚園

楠本貴子 主幹教諭

保育の道へと進むうと決めたのは短期大学2年の時——。介護の仕事に興味があり、その道へと考えていましたが、保育実習での体験が転機となりました。子どもたちのキラキラした笑顔や、先生たちの優しいまなざし、笑顔で生き生きと働く姿を見て保育の仕事はなんてすてきなんだろうと実感しました。また、亡くなった父から「お前は優しいから、小さな子と関わる仕事に向いている」と言われたことも決め手となりました。

しかし、仕事を始めると失敗の連続でふがいない自分に落ち込むことが多く……。特に、初めて年長児を担当したときは「本当に私が担任で大丈夫だろうか」と不安やプレッシャーに押しつぶされて逃げ出したいと思うこともありました。そんな状況乗り越え今があるのは、一緒に働く仲間や保護者の皆さんの支え、そして子どもたちの存在のおかげでした。日が暮れるまで鬼ごっこをしたり、土やほこりで顔を真っ黒にしながら、ピカピカの泥団子を夢中で作ったり。他愛のない会話で笑い合い、苦手なことにも諦めず挑戦する真剣な姿など、日々全力投球の子どもたちに、たくさんの方の元気をもらいました。

また、卒園式での感動は忘れることができません。いろいろな経験を成長した子どもたちが、堂々と卒園証書を受け取る姿は何事にも代えられませんが、卒園式での感動は忘れることができません。いろいろな経験を成長した子どもたちが、堂々と卒園証書を受け取る姿は何事にも代えられませんが、卒園式での感動は忘れることができません。

村内等で行われた活動やイベントを紹介します

ず〜むあっぷ「まちの風景」



大切なことは、「心を開きたい」という気持ち 大 村内の2人が保護司として表彰

10月7日、東京国際フォーラムで開催された「更生保護制度施行70周年記念全国大会」で、法務大臣表彰を受けた黒羽根史朗さん、全国保護司連盟理事長表彰を受けた佐藤弘子さんが、12月11日、村長へ報告に訪れました。保護司として黒羽根さんは20年、佐藤さんは16年、相手の心に寄り添い、更生保護活動を続けてきたことが評価され、今回の受賞に至りました。お2人は「今後も明るい地域社会づくりのために尽力したい」と話してくれました。



おいしい「ほしいも」はどうやってつくるの？ お イモゾーもお手伝い！「ほしいも講座」

12月13日、中丸小の3年生(108人)が、総合的な学習の一環として、ほしいもの歴史や作り方などを学びました。「ほしいも講座」は、村の特産品であるほしいものに興味や愛着を持ってもらうために行われ、今回で5年目。JA常陸の職員の説明の後、イモゾーから村内で作られたほしいもを受け取った子どもたちは、満面の笑みを浮かべ「うれしい！」の一言。ほしいもシーズン真っ盛りの今、皆さんも歴史あるほしいもを食べてみてくださいね。